

ドローン×映像業界

「ドローン」の導入に欠かせない法律知識を基礎から徹底解説！（第6回）

村松達哉

むらまつ・たつや 行政書士ネットワーク



映像業界の皆様安心してドローンを活用いただくための連載企画「ドローン×映像業界」。

前号では、現場でドローンを活用する際の手続き上の注意点を解説させていただきました。

業務でドローンを活用する際には、飛行許可の取得が大前提になります。まずは必要な手続きを確認したうえで、各役所に書類の提出を行いましょう。手続きを行う場所や提出書類の詳細は前号をご確認ください。

無事に全ての手続きが完了したら現場での飛行準備の段階です。今回号では、現場でドローンを活用する際の安全管理のポイントを中心に解説しますのでご参考ください。

まずは安全な飛行計画の作成を！

ドローンの飛行には、「第三者の上で飛行させない。」
「雨の場合は飛行させない。」といった基本ルールがあります。

下記に最低限守るべきルールをまとめましたので、飛行計画を立てる際にご参考ください。

基本的なルール

- ・第三者に対する危害を防止するため、第三者の上空で無人航空機を飛行させない。
- ・風速 5 m/s 以上の状態では飛行させない。
- ・雨の場合や雨になりそうな場合は飛行させない。
- ・高速道路、交通量が多い一般道、鉄道の上空やその付近では飛行させない。
- ・高圧線、変電所、電波塔及び無線施設等の施設付近では飛行させない。等

この他にも、夜間飛行や目視外飛行を行う場合など、飛行させる方法ごとに守らなければいけない基本

ルールがあります。詳細は国交省 HP をご参照ください。また、弊社にご連絡をいただければ詳細な注意点をご案内いたしますのでお気軽にご連絡を頂ければと思います。

安全性に配慮した計画が完成したら、次は現場での安全管理の準備です。今回は、ドローンによる空撮や飛行時の完全管理コンサルティングを手掛けるアルファ・タクティクス株式会社の鈴木康之社長にもご協力いただき、現場でドローンを運用する際の注意点をまとめました。

安全の基本は「補助者」の配置

——ドローンを飛行させる際、現場の安全性を確保するための基本として、補助者の配置があります。鈴木社長が飛行を行う際は、こういった体制で現場の安全管理を行っているのでしょうか。

鈴木 ドローンを飛行させる際、操縦者がプロポのモニターに集中してしまうと、どうしても周囲の状況に気を配ることが難しくなります。そこで、飛行のサポートを行う補助者の配置を行い、周囲の安全確認を実施することが重要です。私たちがドローンを飛行させる際には、操縦者・補助者がトランシーバーで連絡を取り合いながら周囲の状況を確認しあうことで、安全性の確保を徹底しております。



国土交通省のドローン運用規定でも、補助者に以下の役割を求めていますのでご参考ください。

- ・飛行範囲に第三者が立ち入らないよう注意喚起を行う。
- ・飛行経路全体を見渡せる位置で、ドローンの飛行状況や周囲の気象状況の変化等を監視し、操縦者が安全飛行させることができるよう必要な助言を行う。等

トラブル防止対策

—私が申請を担当しているお客様から、「許可を受けているのに通行人に通報されてしまい空撮を中断せざるを得なくなりました。」という相談をいただくことがあります。鈴木社長はドローンを飛行させる際に、こういったトラブルに巻き込まれないように注意している点はありますか？

鈴木 ドローンの飛行はまだ一般的になっておらず、こういったトラブルは今後も続くことが予想されます。操縦者が許可を取得していることをアピールできる腕章を巻いておくだけでもトラブル防止に効果があります。



安全なドローン空撮のこれから

—鈴木社長はどういったきっかけでドローンによる空撮を始められたのでしょうか。

鈴木 私は、かつて航空機による撮影をしておりました。当時はカメラもフィルムが主流でフィルムも6×7cm、4×5in、8×10inでした。ビデオ撮影もハンディーカム等が出てきたところでした。当時、空撮は常に天候との勝負でした。我が家から東京タワーが見えると視程5Km羽田の離陸する航空機が見えると、よし10Kmあるぞ！有視界OK！「あがれ〜！」ってなものです。

—実機を使用した空撮を行っていたのですね！ドローンによる空撮とはどういった違いがあるのでしょうか。

鈴木 実機で空撮をしていた頃は、基本航空機は東京タワーの高さよりは降りられませんでしたが。皇居周辺などの撮影には随分と苦勞したものです。ドローンを導入したことによって今まで下がれなかった低い高度の角度も撮影できるようになったのは大きな違いですね。

—実機とドローン、両方の空撮現場を知る鈴木社長ですが、現在のドローン業界の現状をどのように分析しているのでしょうか。

鈴木 当時、将来を考えると、これからは環境事業だと思いつつ徐々に業務を移行してきました。時代は変わって世はまさにPCとデータ、そんな中ここ数年でドローン技術が目覚ましく発展、機体の安定性とカメラの性能も目を見張るものがあります。ドローン飛行の条件や安全性は色々な形で表記されておりますが、私は今日のドローンの長所と短所を以下のように考えております。

○ドローンの長所

1. 技術的に簡単に飛ばせる
2. 機体が安価
3. 装備されているカメラの性能が高い
4. 難しい資格がない

○ドローンの短所

1. ラジオコントロールの所見データ等が少ない。
2. 飛行限界風速が低い
3. バッテリーの持続時間が短い
4. 安全面でパイロットもしくはカメラマンの2名では飛ばせない
5. 航空法の課題もまだ多い
6. 現在はサプライヤーとしてほぼ一社が独占状態

上記のことを考慮し安全飛行とは何かを考えた時、数々の課題が出てくると思います。

今後も、現場での安全なドローン活用を促進できるよう尽力していきたいと考えております。

—鈴木社長ありがとうございました。今後ドローンを活用する際には是非ご参考いただければと思います。



協力 アルファ・タクティクス株式会社

代表取締役 鈴木康之

HP <http://alfa-tac.com>

私共は、ドローン技術の発展・可能性に着目し、本年3月に航空写真部を開設いたしました。

環境事業で培った大手建設会社様や映像・広告関係のお知り合いにもご協力できる事ができればうれしい限りです。

安全第一で臨む所存でございます。